阪神北地域夢会議　会議録

１　テーマ：住みたい“まち”はどんな“まち”

２　開催日：平成 28 年 2 月 21 日（日）13:00～16：00

３　場　所：宝塚市立東公民館

４　出席者：　９１名（ビジョン委員 26 名、一般 25 名、大学生 5 名、在住外国人 10 名、来賓 9 名、専門委員 4 名、オブザーバー3 名、兵庫県 9 名）

５　内容

(1) 開会（13:00～13:15）

(2) グループ討議（13:20～14:40）

サブテーマ１「地域活動が広がる“まち”にするためには」
①-Ａグループ、①-Ｂグループ、①-Ｃグループ
サブテーマ２「みんなが暮らしやすい“まち”にするためには」
②-Ａグループ、②-Ｂグループ
サブテーマ３「豊かな自然を守り活かす“まち”にするためには」
③グループ
サブテーマ４「活気・にぎわいのある“まち”にするためには」
④-Ａグループ、④-Ｂグループ

(3) 全体会（14:50～16:00）

〇来賓あいさつ［中川智子宝塚市長］

・本日のテーマは「住みたい“まち”はどんな“まち”」だが、これが行政の仕事の基本だ。
・高齢化問題など難しい問題があるが、特に深刻なのは人口減少問題だ。市域間で人の取り合いをするのではなく、阪神北地域全体の市町が協力して、どのように阪神北地域の魅力をつくり、全国に発信し、住んでもらうかを考えることが大切。
・例えば、宝塚市域の面積の 2/3 がのどかな西谷地域だが、大阪、東京などからどうやって移住してもらうかの議論が必要だ。
・どのような場所に住みたいか、そのためにはどのようにまちを変えていくのかの議論がもっと広がって皆様と力を合わせて頑張って行きたいと考えている。

〇グループ討議発表

サブテーマ１「地域活動が広がる“まち”にするためには」

＜①-Ａグループ＞

・中学生の参加者から、「小中学生は意欲を持っていてもボランティアに参加が認められないことが多い」との意見があった。
・個人でのボランティア参加はやりにくい環境にある。
・ボランティアのテーマを「防災」にした場合、阪神北と阪神南では内容が異なる。

・市役所や社協などに緩やかなコミュニケーションの場を設定する機能を作る必要がある。(SNS の利用など)

＜①-Ｂグループ＞

・地域活動は自治会に頼っているのが現状で、若い世代にどのように活動に加わってもらうかが問題だ。
・自治会への勧誘を行政にしてもらう、イベントを通じて自治会の良さを理解してもらうなどが考えられる。
・外国人も住みやすいまちにするには、外国人も自治会などに参加してもらうのがよい。
・自治会、社協、コミュニティ協議会、地域のボランティア団体などの連携を持って地域活動を広げていこう、との結論になった。

＜①-Ｃグループ＞

（課題・現状）
・放置された空き家が増えている。
・高齢者の援助の窓口の利用者が少ない。
・中高年の居場所、交流会館の使い方の工夫、情報の伝え方の工夫などが必要。
・外国人が出来るアルバイトが少ない。
・保育園が少ない。
（希望・目標）
・母国語で運転免許が取れたらよい。
・もっとコミュニティバスを導入すべきだ。
・スーパーの移動販売を導入すべきだ。
・独居老人の支援システムを構築すべきだ。
（改善方法）
・サプライズなアイデアづくり、サークルづくりがまちおこしに大切だ。
・幼稚園バス、塾の送迎バスの空き時間を活用して、コミュニティバスに仕立てるのがよい。
・高齢者が外出できるような環境づくりをする必要がある。

＜芳田専門委員コメント＞（サブテーマ１について）

・いかに地域活動を広げるか、ということだと思う。
・最近は「高齢化」だけでなく、「パーソナル化」してきている。
・干渉されたくないが、ひとりぼっちは寂しい、という世の中で地域活動をどのように広げるかが課題だ。
・ＳＮＳなど便利なグッズを自治会などでも積極的に導入して、認知度を高めていくのがよい。
・行政と県民がコラボしながらやっていくしかない。

サブテーマ２「みんなが暮らしやすい“まち”にするためには」

＜②-Ａグループ＞

・先ず自らの意識を変える。
・阪神北地域は、病院の数が少ない、交通の便が悪い、防災設備に心配がある。
・挨拶することによってまちの人々が仲良くなり、雰囲気も明るくなり、防

犯対策になる。
・お互いが顔見知りになることにより、助け合いがスムーズになる。

＜②-Ｂグループ＞

（課題・現状）
・空き家が多くなり、まちの活気がなくなったり、防犯上の不安が増えている。
・挨拶、コミュニケーションが少ないので、孤独感、トラブルが増している。
・外国人には交通機関の利用方法がわかりにくい。
・漢字にふりがなが少ないので、外国人にはわかりにくい。
・外国人には病院の探し方、相談する場、トイレの使用方法等がわからない。

（改善方法）
・空き家対策は行政が主導すべきだ。
・コミュニケーション対策は、自治会でイベントをしたり、回覧板を手渡しにする、ボランティアグループが活躍するなどが考えられる。
・市役所やコンビニに外国人向けの暮らしに役立つ易しいパンフレットを置く。
・市役所に外国人向けの相談場所を設置する。

＜上田専門委員コメント＞（サブテーマ２について）

・２つのグループに共通する課題として、①近隣同士のコミュニケーションの問題、②空き家の増加問題、が挙げられていた。
・①の解決方法として、あいさつ運動のようなﾌｪｲｽ･ﾄｩ･ﾌｪｲｽのつながり作り、地域のイベントなどの情報発信の見直しなどが考えられる。
・②の解決方法として、自然環境が豊かな郊外に住みたい子育て世代を呼び込んで、郊外の空き家に住んでもらうなどすればいいのではないか。

サブテーマ３「豊かな自然を守り活かす“まち”にするためには」

＜③グループ＞

（現状・課題）
・武庫川が有効活用されておらず、川とまちが一体化するようなところがない。
・里山の資源が自然循環されていない。
・現役世代が里山管理に参加できていない。

（希望・目標）
・シニアと子どもたちとの間をつなぐ人・団体を作りたい。
・山も川も住民の憩いの空間として整備する必要がある。
・現役世代は、時間に余裕が出来たら里山管理に参加したいと思えるような心の素地づくりをすべきだ。

（改善方法）
・山で裸足になると健康になれる。
・武庫川の周辺に柳の木を植え、ベンチを置いて憩いの場にすればよい。

＜今井専門委員コメント＞（サブテーマ３について）

・アフリカでは人々の暮らしと自然環境は密接に結びついているが、日本の現状は対照的で、自然環境と住民生活が切断している。
・その結果、里山についての知識を持たなくなっている。

・自然環境の経済的な利用価値が減っている。
・このような現状に拍車をかけるように少子高齢化が進んでいる。
・若い世代への環境教育とかレクリエーションの場として里山の利用が可能だ。
・里山で生産されたものに付加価値を付けて販売するなどが考えられる。
・「地域創生」の手段として里山を活用していくことを考える必要がある。
・里山管理を外部社会に発信していくことも大切。
・外国人が暮らしから得た自然環境・生活文化の知恵を拝借する方法もある。

サブテーマ４「活気・にぎわいのある“まち”にするためには」

＜④−Ａグループ＞

・地域の活性化の方法として、駅に近いところに学校や遊び場を作る、商店の営業時間を延長するなどが考えられる。
・老人が活躍できるイベントなどを企画する。
・嫌な老人ではなく、賢い老人になるため、趣味、ボランティアに参加するのがよい。
・高齢者のための運動施設を作るため、都市間で連携する。

＜④−Ｂグループ＞

・商店街活性化の課題解決の方法は、県や市のビジョンが多すぎてかえって実行できていないので、もっとビジョンを整理して進むべき方向を明確にする必要がある。
・個人商店はショッピングモールに客を奪われて活気を失っているが、地域の特色を活かした商品開発やイベントが必要。
・空き店舗は後継者不在などによることが多いが、空き店舗を有効活用するため、イベントに活用するなど、人とのつながりに結びつける方策が必要だ。
・「御影バル」などを参考にするとよい。
・地域の活性化のためには、地域の良さや特色をアピールしたり、心地のよい場所作り、みんなで地域を大切にしていくことなどが求められる。

＜滋野専門委員コメント＞（サブテーマ４について）

・異文化・異世代のギャップを埋める施策を採るべきという意見と、全く別のアプローチを採るべきではないかという意見がある。
・誰がリーダーをやるかが見えなくなっているなど、組織力が弱くなっていて活動が活発化しない、地域の人々も商店街を支える意識がない、拠点の整備が出来ていない、イベントの継続性がないなどの問題がある。
・行政と市民の意識の違いにより、市民の希望を行政が先延ばしにする、行政が具体策な施策の実行を考えていないことなどに対し、市民には失望感があるのではないか。
・行政とうまくやるためのポジションに立つリーダーが必要だし、リーダーを支えるためのサポートシステムも必要。
・自分の身を切っていかなければならない時なのに、自分の金は出さない、全部補助金に頼るといった方法では成功しないだろうと思う。

○＜外国人の感想＞

（アメリカ）

・サブテーマ２を討議した。
・空き家対策等の阪神北地域の課題の議論が聞けてよかった。
・兵庫県在住の外国人の意見も聞けてよかった。
・住民がまちを良くしようという考えを持ち、議論を繰り返すことでまちが良くなるのだと実感した。

（中国）

・サブテーマ４を討議した。
・地域の住民が集まり、お互いに地域のために意見を出し合い、もっといいいまちにしようと頑張っている姿が一番印象深かった。
・中国でも地域によってはこのような議論をすることはあるが、まだまだ少ないのでもっと増やしてほしいと思っている。
・中国は現在発展の途中だが、もう高齢化が進んでいて、今日本が直面している問題は、数十年後には中国も直面すると思われる。
・日本での経験を学んで、将来中国で活かせたらいいなと思う。
・日本はとても住み心地がいい所だと思う。今後さらに、日本人にとっても外国人にとってももっといい所になればいいなと思う。

○＜金澤副知事コメント＞（全般について）

・今回のテーマは奥も深いし、切り口もいろいろある。
・いろいろな切り口から熱心に討議いただいた成果を実感した。
・テーマが難しかったために、課題の提示が多く出されたのに対し、解決策は比較的少なかったのではないかと思う。
・行政の責任でやらなければならないこともたくさん出された。例えば、施設整備、環境整備、武庫川に柳を植えること、保育料、コミュニティバスなどだ。
・行政として住民に失望感を与えないように努力しなければならないという認識を新たにした。
・今全国的に人口が減少しており、さらに兵庫県は首都圏へ毎年 7000 人も流出している。しかも若者が多い。
・若者にとってどこで仕事をするか、どこで家庭を持つかを考えたときに兵庫県より首都圏の方がいいと思われてしまっていることは問題だ。
・若者を惹きつけるような対策を兵庫県全体、県内市町として考えていかなければならない。これを地域創生といっている。
・行政の責任だけでなく、県民・市民の皆さんにも一緒に汗をかいてほしいことがある。
・１つは、地域自慢、お国自慢を地域外の大勢の人達に心の底から伝えてほしいこと。
・もう１つは、新住民と旧住民、日本人と外国人、高齢者と若者、などの間に心のバリアーを作らず､いろんな人が自由に出入りできる地域にすること。
・「中学生がボランティアをしては駄目」ではなく、中学生なりのボランティアをしてもらうことが正しい。
・空き家や空き商店がもし使えないのであれば、誰かに無料で貸してあげればまだ使いようがあるのに、なかなかそうならないのが現実だ。

・県民・市民の皆さんにもそれぞれの立場で出来ることを一緒になって協力してもらうと、外から人が入って来やすい地域が出来るのではないか。
・阪神北地域は、多くの住民がいいところだと思っている所だし、客観的に見ても、自然と都市的な生活がうまく調和し、さらにそれぞれの市町が個性を持っている魅力的な地域だ。
・よそから見れば羨ましい財産を持っている地域なので、そのような財産を皆さんの力で生き生きと輝くよう、これからも夢会議に限らず地域活動でご協力をお願いしたい。